

琉球大学学術リポジトリ

平成23年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業 報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学生涯学習教育研究センター 公開日: 2012-11-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/25254

平成23年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業報告

平成23年度における生涯学習教育研究センターの事業は以下の通りである。

1. 中期計画達成プロジェクト経費事業：「知のふるさと納税」

本プロジェクトは、離島を数多く抱える地域の大学として、また、離島出身の教員や学生が多数在籍する大学として、大学資源の開放および学習機会の提供等を通じて離島地域の発展に貢献することを目指すものである。昨年度同様、学内の特別経費である中期計画達成プロジェクト経費を受け、大学教育センターとの連携のもと、宮古、八重山の両地区においてプロジェクトを実施した。

今年度は八重山、宮古の両地区ともに学生と小中学生・高校生との交流会を中心に実施した。昨年度の宮古地区での学生派遣が大変好評であったからである。これに加えて、高校生の保護者との交流会や、本学の教職員・学生、現地のPTA関係者などを巻き込んだワークショップ（「熟議」）を実施し、新たな企画の開発も行った。さらに、当プロジェクトのさらなる普及・周知に向け、参加した学生による実施報告書の作成も行った。プロジェクトの概要は以下の通りである。

(1) 宮古地区（学生版：9月13日～16日）

宮古地区では昨年に引き続き学生版を実施した。今回は昨年度参加してくれた学生3名、新たに参加した学生2名の、5名による実施となった。参加学生の氏名・所属は表1のとおりである。今回は、昨年度もお世話になった小中学校での学校支援ボランティアを中心に、新たに久松中学校での進路相談会も実施した。以下、表2を参照しながらご覧頂きたい。

平良第一小学校では、昨年度は低学年への読み聞かせボランティアとしてお世話になったが、今年度は中学年の子どもたちとの交流となった。学生たちは、子ども一人ひとりの個性や先生の細やかな配慮などに感銘を受けていたようであった。また、2日間の交流会終了後には、子どもたち一人ひとりから感想文を受け取り、学生たちが心から感動していた姿が印象的であった。

3日目以降は、昼間の活動は昨年同様、伊良部島班と宮古島班の2班に分かれて実施した。伊良部島班は2名が佐良浜小学校および中学校を訪問し、学校支援ボランティアとして活動した。2名とも伊良部島出身ということで、生徒たちのなかにも知り合いが多く、率直な質問や応答がなされた。また、宮古島では、平良南小学校に3名の学生が訪問し、1クラスに一人ずつ入って授業補助を行った。2日間でも濃密な交流がなされたようで、別れの時には寂しくて泣いてしまった子もいたという学生の話が印象的であった。

さらに、14日～16日の3日間、宮古島班は上記の小中学校での活動終了後に、久松中学校での進路相談会に参加した。1日1学年のペースで開催し、全学年との交流を果たすことができた。どの学年でも、学生たちが中学時代にどんな生徒だったのか、大学生活とはどのようなものなのかという話が興味を惹いていたようであった。

2年目を迎えた宮古地区でのふるさと納税であったが、活動が根づきつつあることを感じる一方、

表1 宮古地区参加学生一覧

佐久本	孟	教育学部1年次
花 沢	千 裕	法文学部2年次
前 泊	秀 徳	理 学 部 2 年 次
福 島	樹 季	工 学 部 2 年 次
城 間	康	工 学 部 3 年 次



学校支援ボランティア活動の様子

実施体制の面でいくつかの課題も浮かびあがってきた。一番の問題は参加した学生が少なかったことである。だが、これについては学生にはそれぞれ事情があり、むしろ登録制のような形で参加者の裾野を広げておく努力が必要であることを示唆している。また、参加学生が少なかったにもかかわらず、2班に分けてしまったことは大きな反省点である。さらには、本事業のターゲットを絞り込む必要性である。今回の企画では時間的に小学校での活動が中心となったが、進路や人生を考え始める中学生・高校生に比べて、小学校での授業補助が本当に大学生という存在の強みを生かすことになるのか、考える必要がある。逆に、現地関係者からは、大学生自身が何をするのか、何をしたいのか、もっと明確にしてから来て欲しいという意見も頂いた。

こうした課題が明らかになってきたことを踏まえ、年度末には、学生および宮古地区の関係者も含めて、翌年度以降のプロジェクトを企画するためのワークショップ型会議を実施した。学生の当事者意識をより引き出すとともに、全ての関係者が本音を語り合い、プロジェクト自体の理念の明確化を図ることができたように思う（写真）。この結果を踏まえ、来年度は学生とともにより質の高い企画を実施していきたい。

なお、以上の点も含め、昨年度からの2年分の活動については、学生たちが自ら編集した「知のふるさと納税」報告書・宮古編にも掲載されている。編集活動自体がチームワークを生み出すきっかけとなり、来年度に向けてよい兆しが表れてきている。

最後に、本プロジェクトの実施にあたっては、昨年同様、宮古島市教育委員会生涯学習振興課の前里利蔵氏を始め、宮古島市学校支援地域本部の各地区コーディネーターを務めておられる上松朋子氏、前里芳人氏、仲間ひとみ氏から多大なご支援を頂いた。記して深く感謝申し上げます。また、学生を受け入れて下さった、平良第一小学校、平良南小学校、久松中学校、佐良浜小学校、佐良浜中学校の関係者の方々には、本企画に貴重な時間を割いて下さったことを心より感謝申し上げます。



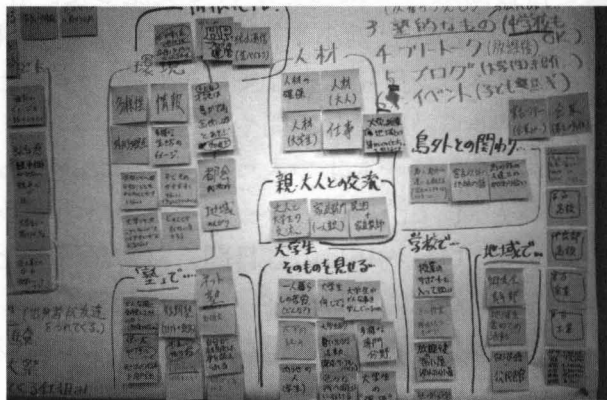
ワークショップ型会議の様子①



ワークショップ型会議の様子②



ワークショップ型会議の様子③



ワークショップ型会議の結果

表2 「知のふるさと納税」宮古編：スケジュール

時間	9/13 (火)	9/14 (水)	9/15 (木)		9/16 (金)	
7:00						
	8:00集合	8:00集合		8:00集合	8:00集合	8:00集合
8:00	平良第一小学校 集合・挨拶			平良南小学校 集合・挨拶		
9:00						
10:00			10:00集合			
11:00	平良第一小学校 学校支援 ボランティア	平良第一小学校 学校支援 ボランティア 4-3, 31名 3-3, 32名		平良南小学校 学校支援 ボランティア	佐良浜小学校 学校支援 ボランティア 5年生29名	平良南小学校 学校支援 ボランティア 2-3, 30名 2-1, 31名 2-2, 30名
12:00	4-3, 31名 3-3, 32名		佐良浜中学校 学校支援 ボランティア 1年生29名 2年生25名 3年生24名	2-1, 31名 2-2, 30名 2-3, 30名		
13:00						
14:00						
15:00						
	15:30終了		15:30終了		15:30終了	
16:00	久松中学校 部活補助	久松中学校 進路相談会(1) 1年生43名		久松中学校 進路相談会(2) 3年生41名		久松中学校 進路相談会 (3) 2年生42名
17:00						
	18:00頃終	18:00頃終		18:00頃終		18:00頃終
18:00						
19:00						

(対象者：計387名)

(2) 八重山地区 (学生版：9月27日～30日)

八重山地区では今年度より学生版を中心にプロジェクトを実施した。学内に募集をかけたところ、8名の学生が参加を申し出てくれた。参加学生の氏名・所属は表3の通りである。大学生にとっては、夏休み最後の週であり、後学期の履修科目登録の期間と重なるなど、難しい条件があったが、現地の中学校や高校などでは、受験に向けて力を入れ始める時期ということで感謝の声も頂いた。以下、表4をご覧くださいながらお読み頂きたい。

初日は、開講式の後、石垣第二中学校3年生175名との交流会を実施した。各クラスに大学生が数名ずつ入り、車座になって交流を図りながら、中学生からの様々な質問に答えるというプログラムであった。学生たちは改めて八重山の生徒たちが大学をイメージしにくい環境にあることを感じたようで、交流を通じて「大学のイメージを地元の生徒に伝えることで、少しでも将来の目標や進路の選択幅を広げることができたのではないか」と報告書(後掲)に記している。

翌日から2日間は登野城小学校にて学習支援ボランティアを行った。学生たちはおもに各クラスに入っているティーチング・アシスタントや週末に控えていた運動会練習の補助として参加した。教員側の目線で小学生と接することになり、学生達は教育の面白さと難しさをともに学んだ様子であった。また、同校校長の宮良永秀先生からの激励のお言葉も頂き、八重山の教育の現状や自分たちの将来について改めて振り返る機会となったようである。

3日目の夕方からは八重山高校にて、在校生およびその保護者との交流会を開いた。まず、在校生との交流会では、琉球大学への進学に関心のある生徒たちが36名ほど集まってくれた。

高校生ともなれば既に興味のある分野も多様になっていると考え、全体での自己紹介のあとはすぐに理系分野、法文学部、教育学部の3グループに分かれての自由討議の時間とした。生徒たちからの熱心な質問は尽きることなく、終了時刻を過ぎても個別に話を聴いている生徒もいたことから、本企画は学生・生徒の双方にとって有益な機会になったと感じた。

続けて、八重山高校PTAとの共催により、大学生と高校生の保護者との交流会を開催した。ここでは、大学生の自己紹介の後、男子と女子では保護者の悩みやニーズも異なると考え、男子大学生に話を聴くグループを1つ、女子大学生に話を聴くグループを2つ設け、小集団で密度の濃い交流をしよう工夫した。いずれのグループでも保護者から熱心な質問が投げかけられ、大学生たちが時折戸惑いつつも真摯に答えようとしていたことが印象に残っている。質問としては、寮生活や一人暮らしの現状、受験時に親にして欲しかったこと・して欲しくなかったことが主なものであった。全体として、高校生同様、親もまた受験や大学についての情報を欲していることを強く感じた企画であった。

以上3日間の活動を終え、最終日には八重山教育事務所にて、活動の振り返りと発表を行い、合わせて同事務所長である宮良学氏からの講話を頂いた。宮良氏からの激励の言葉に、大学生たちは改めて自分たちへの期待の大きさを感じていたようであった。最後に、保育園や幼稚園等の教育関連施設を訪問し、職員の方々の話をうかがって今回の企画が終了となった。

表3 八重山地区参加学生一覧

土田 萌	教育学部1年次
上地 真莉	教育学部2年次
池田 亘	理学部2年次
田安 笑美子	理学部2年次
高山 類	理学部2年次
松原 和稀子	法文学部2年次
饒平名 世李	法文学部2年次
西原 彰浩	教育学部3年次



石垣第二中学校での交流会の様子

以上3日間を通して、学生たちが何を感じ、どう成長したか、詳細については後掲の「知のふるさと納税」報告書・八重山編を参照して頂きたい。

最後に、本企画の実施にあたっては、八重山教育事務所社会教育主事（当時）の市原教孝氏、ならびに八重山地区社会教育連絡協議会長の石垣三夫氏に多大なご尽力を賜った。両氏のお力添えがなければ、本企画は実現に至らなかったことを記して感謝申し上げます。また、学生を受け入れて下さった石垣第二中学校、登野城小学校、八重山高校の関係者の方々には、貴重な時間を本企画に割いて下さったことを心より感謝申し上げます。



大学生と保護者との交流会の様子

(3) 八重山地区（熟議版：2月12日）

八重山地区では、昨年まで教員版を中心に実施してきた。今年度は教員による講演だけでなく、そこにワークショップも加えた特別企画として、「熟議 in 八重山：考えよう！やいまっ子の未来」と題する事業を実施した。

はじめに、本学名誉教授であり、当センターの元センター長でもある前原武子先生から「ほどよい感度とつながり」と題する講演を頂いた。これは、当日の八重山地区PTA連合会創立60周年記念式典の一環としても実施されたものである。前原先生は石垣市出身であり、この「知のふるさと納税」プロジェクトのアイデアの提案者でもあるが、3年目にしようやく先生の講演を実現することができた。講演では、子どもの頃に「自分を信じる力」や「人とつながる力」、「誘惑に抵抗する力」などを身につけることが重要であること、子育ては子どもが育つだけでなく、親も育つプロセスであることなど、貴重なお話をうかがうことができた。

続けて、PTA関係者や本学教職員、地元出身の学生7名を含む総勢30名でワークショップを開催した。ワークショップのファシリテーターに、県内でファシリテーション研究会を主催されている大城武秀氏を招き、ワールドカフェという方式のワークショップを実施した。ワールドカフェとは、カフェのような気軽な雰囲気の中で、参加者が自由に発言し、アイデアが交換されることで、新たな気づきや知識が得られる、新しい話し合いの方式である。参加者が5～6名のグループに分かれ、グループ間で移動を繰り返して様々な意見に触れるところに特徴がある。本企画でも、30名が6グループに分かれ、八重山の子育てをめぐる現状や、地域社会のつながりの重要性、これからのアクション



前原先生講演会の様子



熟議 in 八重山の様子

表4 「知のふるさと納税」八重山編：スケジュール

時間	9/27(火)	9/28(水)	9/29(木)	9/30(金)	
7:00		8:00集合	8:00集合		
8:00		登野城小学校 校長室にて挨拶・説明	登野城小学校で学習支援 ボランティア 5-2, 27名 5-3, 27名 5-1, 28名 4-1, 30名 4-2, 30名 4-3, 30名 なかよし, 4名 ひまわり, 6名 (なかよしは低学年の特 別支援学級、ひまわりは 高学年の特別支援学級)		
9:00		登野城小学校で学習支援 ボランティア 1-1, 29名 1-2, 28名 1-3, 29名 2-1, 32名 2-2, 33名 2-3, 32名 3-1, 40名 3-2, 39名		10:00集合	
10:00				八重山教育事務所に おいて閉講式 1) 「学生による体験発 表」 2) 講話 「八重山の教育 について」	
11:00	11:30集合				
12:00	ホテルミヤヒラにて 開講式				
13:00					
14:00	石垣第二中学校 挨拶・説明・校内見学				八重山の 教育関連施設視察 (保育所、幼稚園、自治 公民館など)
15:00	石垣第二中3年5学級で 「進路に関する特別活動」 に参加 3年生35名×5学級 =175名				
16:00				16:45終了	
17:00					八重山高校進路室にて 「在校生への進路相談」 36名参加 (男子9名) (女子27名)
18:00	18:00終了				
19:00			八重山高校PTA事業 「大学生活についての報告」 保護者23名参加 (男性7名) (女性16名)		
20:00					
21:00			21:00頃終了		

(対象者：計678名)

などについて幅広い意見が出され、白熱した議論が展開された。

今回は特別企画での実施となったが、こうしたワークショップ型の企画は参加者の満足度が高く、応用範囲も広いことから、来年度以降も実施していきたいと思う。

以下に、当日のプログラムの概要を示す。「ワールドカフェ」の手法に興味のある方々には参考になる内容ではないかと思う。

<p>①</p> <p>～考えよう！やいまっ子の未来～</p> <p>「子ども達の未来に！ 大人は何が出来るのか」</p> <p>ようこそ！ 熟議in八重山 やいま・カフェ</p> <p>みなさんへ お願い</p> <p>できるだけ、あまりお話し たことがない方と同席して 下さい。</p>	<p>②</p> <p>～考えよう！やいまっ子の未来～</p> <p>「子ども達の未来に！ 大人は何が出来るのか」</p> <p>熟議in八重山 やいま・カフェ</p> <p>ここから みなさんは</p> <p>参加者です。</p> <p>一緒に、考え、体験、していきましょう</p>																								
<p>③</p> <p>プログラム</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16:45-17:00(15分)</td> <td>受付</td> <td>チェックインの準備</td> </tr> <tr> <td>17:00-17:15(15分)</td> <td>オープニング</td> <td>やいまカフェ、イント</td> </tr> <tr> <td>17:15-17:20(5分)</td> <td>チェックイン</td> <td>やり方説明(5分) グループ自己紹介</td> </tr> <tr> <td>17:20-18:25(65分)</td> <td>やいまカフェ ・セッション 1 ・セッション 2 ・セッション 3</td> <td>各セッション 約20分 (バフア 5分)</td> </tr> <tr> <td>18:25-18:40(15分)</td> <td>コメント・体験含む</td> <td>A4紙コメント書く、WBIに貼る。眺める。 伝えたいことのアイディア・ヒント・気づき...</td> </tr> <tr> <td>18:40-18:55(15分)</td> <td>全体 振り返り</td> <td>共有 感想・コメント</td> </tr> <tr> <td>18:55-19:00(5分)</td> <td>閉会</td> <td>お疲れさまでした。</td> </tr> </tbody> </table>	時間	内容	概要	16:45-17:00(15分)	受付	チェックインの準備	17:00-17:15(15分)	オープニング	やいまカフェ、イント	17:15-17:20(5分)	チェックイン	やり方説明(5分) グループ自己紹介	17:20-18:25(65分)	やいまカフェ ・セッション 1 ・セッション 2 ・セッション 3	各セッション 約20分 (バフア 5分)	18:25-18:40(15分)	コメント・体験含む	A4紙コメント書く、WBIに貼る。眺める。 伝えたいことのアイディア・ヒント・気づき...	18:40-18:55(15分)	全体 振り返り	共有 感想・コメント	18:55-19:00(5分)	閉会	お疲れさまでした。	<p>④ やいまカフェ・やり方のポイント1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 備品の確認、プロッキー、模造紙×2 A4紙10枚ほど ・ 1テーブル 4～5人のグループで テーマについて対話を行います。 ・ 各テーブルに 1名テーブルホストがいます ・ 1セッション約20分で対話を3回行います。 ・ 模造紙はキーワードや印象に残った言葉、絵を描いてもいいです。
時間	内容	概要																							
16:45-17:00(15分)	受付	チェックインの準備																							
17:00-17:15(15分)	オープニング	やいまカフェ、イント																							
17:15-17:20(5分)	チェックイン	やり方説明(5分) グループ自己紹介																							
17:20-18:25(65分)	やいまカフェ ・セッション 1 ・セッション 2 ・セッション 3	各セッション 約20分 (バフア 5分)																							
18:25-18:40(15分)	コメント・体験含む	A4紙コメント書く、WBIに貼る。眺める。 伝えたいことのアイディア・ヒント・気づき...																							
18:40-18:55(15分)	全体 振り返り	共有 感想・コメント																							
18:55-19:00(5分)	閉会	お疲れさまでした。																							
<p>⑤</p> <p>模造紙の例</p> 	<p>⑥ やいまカフェ・やり方のポイント2</p> <ul style="list-style-type: none"> ■セッション1 今のテーブルで対話 <ul style="list-style-type: none"> ・ セッション1が終了後 テーブルホスト以外方は移動。 ・ 出来るだけ新しいメンバーになるようにしてください。 ■セッション2 新しいテーブルに移動して対話。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼ばれたい名前前で自己紹介 ・ テーブルホストの方が前のメンバーで対話の内容を2～3分で共有します ■セッション3 元の席に戻り対話を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーブルホストの方が前のメンバーで対話の内容を2～3分で共有します ・ 元の席へ戻り、他のテーブルの対話で良いなと印象に残ったことを持ち出し対話します。 																								
<p>⑦</p> <p>やり方、動き テーブルホストの方以外はシャッフルします</p> 	<p>⑧</p> <p>テーブル・エチケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の経験や考えを述べよう！ ・ 相手の話を良く聴こう！ ・ 一人演説にならないよう時間を分かち合おう！ ・ みんなに見えるように描こう 書こう ・ 感じたこと、気づきつなげよう！ ・ 答えを見つけようとしなない。 ・ まとめないで、対話を楽しもう！ 																								

<p>⑨</p> <p>チェックイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・氏名と呼ばれたい名前 大城武秀 通称 たけ ・子ども頃育った地域 遊びが中心だった頃育った地域、、、 ・子ども頃過ごした思い出や風景 ・今の気持ち <p><small>テーブルメンバーのチェックイン ・A4紙を掲げ 自己紹介 ・一人1分を目安に ・△に折り曲げ名札として使用</small></p>	<p>⑩</p> <p>本日の テーマは</p> <p>子ども達の 将来のために 大切にしたいコトは は何ですか？</p> <p><small>テーマを講演紙のまん中付近に書いて下さい！</small></p>
<p>⑪</p> <p>本日の テーマは</p> <p>子ども達の 将来のために 大切にしたいコトは は何ですか？</p> <p>セッション1</p>	<p>⑫</p> <p>本日の テーマは</p> <p>子ども達の 将来のために 大切にしたいコトは は何ですか？</p> <p>セッション2</p> <p><small>・ブロッキー(マジック)はテーブルに置いて、名札は持って・シャッフルします。 ・出来るだけ新しいメンバー構成になるように ・テーブルホストの方は、グループで話し合われた内容を2〜3分で共有して下さい</small></p>
<p>⑬</p> <p>本日の テーマは</p> <p>子ども達の 将来のために 大切にしたいコトは は何ですか？</p> <p>セッション3</p> <p><small>・ブロッキー(マジック)はテーブルに置いて、名札は持って元のテーブルに戻して下さい。 ・テーブルホストの方は、同じようにグループで話し合われた内容を2〜3分で共有して下さい</small></p>	<p>⑭</p> <p>コメント・休憩</p> <p>これまでの対話の中 での、気づきや感じ たことのコメントをA4 紙に書いて、壁に貼 る</p> <p><small>時間の関係で申し訳ないのですが、コメント記入と 休憩時間を同時に取らせていただきます。 コメントを書きましたら、こちらの WBへ貼って下さい。</small></p>
<p>⑮</p> <p>全体振り返り</p> <p>18:50</p> <p>休憩終了後は コメント貼られて面へ 前にお集まり下さい</p> <p>前列の方は 椅子をご利用下さい</p>	<p>⑯</p> <p>今日の手法は ワールドカフェ</p> <p>ワールド・カフェはアニータ・ブラウン氏とデイビッド・アイザックス氏によって、1995年に開発・提唱された対話の手法です。現在、ワールド・カフェは世界中に普及しており、ビジネス、市民活動、まちづくり、教育など様々な分野での活用が進んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカフェは、「会議室で行われる会話ではなく、カフェのようなオープンな場で行われる対話を通じて、知恵やアイデアが生み出される」という考えに基づいた対話の手法ですが、対話を楽しんでいただけましたでしょうか？ 最後に今日のやいまカフェで感想や感じたコトを共有したいと思います
<p>⑰</p> <p>全体振り返り</p> <p>最後に 今日のやいまカフェ で感想感じたいこと などを共有したいと 思います。</p>	<p>⑱</p> <p>終了</p> <p>みなさま 長時間にわたる 研修及びやいまカフェへ のご参加ありがとうございました。</p>

4) 「知のふるさと納税」実施報告書

「知のふるさと納税」学生版の活動も2年目に入り、この間、様々な学校や教育機関、関係者の方々にお世話になってきた。そうした方々への御礼や、学生自身が活動を振り返り、次回以降の活動につなげていく契機となるよう、学生たちの手による実施報告書の作成に取り組んだ。1月～3月にかけて、宮古出身学生と八重山出身学生がそれぞれ毎週集まり、時には夜遅くまで時間をかけて作業に取り組んだ。完成したものは、それぞれ新聞形式で8頁にわたる力作である。ここには、参考までに縮刷版を掲載するが、報告書自体を入手されたい方は当センターまでご連絡頂きたい。

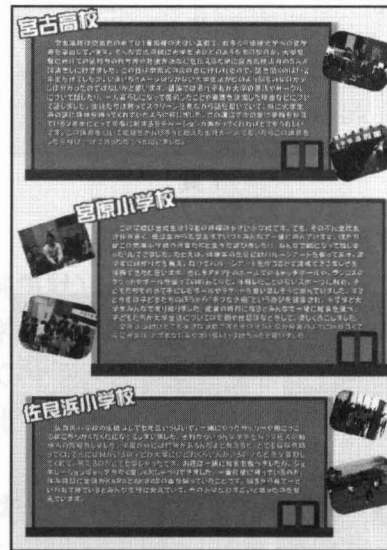
① 実施報告書：宮古編



1 頁



2 頁



3 頁



4 頁



5 頁



6 頁

(続く)

活動に参加してみて

市柏高校 理学部2年次
 理学部2年次の学生は、理学的な知識と実践的なスキルを身につけています。最新の実験装置を使い、最先端の研究を行っています。興味のある分野をさらに深く学びたいという学生は、ぜひ参加してください。

島村高校 理学部2年次
 島村高校の理学部2年次生は、基礎から応用まで幅広く学び、実践的な力を身につけています。最新の設備と豊富な教材が、あなたの学びをサポートします。

旭川南校 理学部2年次
 旭川南校の理学部2年次生は、理学的な知識と実践的なスキルを身につけています。最新の設備と豊富な教材が、あなたの学びをサポートします。

札幌南校 理学部2年次
 札幌南校の理学部2年次生は、理学的な知識と実践的なスキルを身につけています。最新の設備と豊富な教材が、あなたの学びをサポートします。

下野高校 理学部2年次
 下野高校の理学部2年次生は、理学的な知識と実践的なスキルを身につけています。最新の設備と豊富な教材が、あなたの学びをサポートします。

五国学習センター 長城 監

7頁

次の活動に向けて

写真を見て、実際の「100あると1000」の活動にどうも取り組めるか考えてみます。写真を見て、実際の「100あると1000」の活動にどうも取り組めるか考えてみます。写真を見て、実際の「100あると1000」の活動にどうも取り組めるか考えてみます。

センター長挨拶

「就職への基礎」と「学生生活のサポート」の徹底
 就職活動は、大学生活の中で最も重要な時期です。本センターでは、就職活動のサポートだけでなく、大学生活のサポートも徹底しています。就職活動のサポートだけでなく、大学生活のサポートも徹底しています。

五国学習センター 長城 監

8頁

② 実施報告書：八重山編

知のふるさと納税

石垣第二中学校 9月26日
 活動の流れ
 1. クラス分け
 2. 打ち合わせ
 3. アイスクレーン
 4. 一問一答
 5. 抽選の手振り
 6. アイスクレーン進行
 7. 抽選の手振り

五国学習センター 長城 監

1頁

石垣第二中学校 9月26日

活動の流れ
 1. クラス分け
 2. 打ち合わせ
 3. アイスクレーン
 4. 一問一答
 5. 抽選の手振り
 6. アイスクレーン進行
 7. 抽選の手振り

五国学習センター 長城 監

2頁

登野城小学校 9月26日

運動会のお手伝い
 授業のお手伝い
 ふれあい
 一緒に勉強
 まるつけのお手伝い
 朝のびびり運動

僕も大学行きたい。勉強がんばる。

五国学習センター 長城 監

3頁

八重山高校 9月26日

生活者の感謝会
 1. 感謝状の贈呈
 2. 抽選の手振り
 3. アイスクレーン進行
 4. 抽選の手振り

五国学習センター 長城 監

4頁

私たちの多くが学びながら生活しています

2011.11.21-22
 ゆっくりと着実に
 五国学習センター 長城 監

5頁

感謝

もえ (教育事務)
 わかこ (値文事務)
 まり (教育事務)
 せり (値文事務)
 るい (事務)
 えいこ (事務)
 わたる (事務)

五国学習センター 長城 監

6頁



7頁



8頁

(5) 「知のふるさと納税」学生版・中学生アンケートの結果（単純集計）

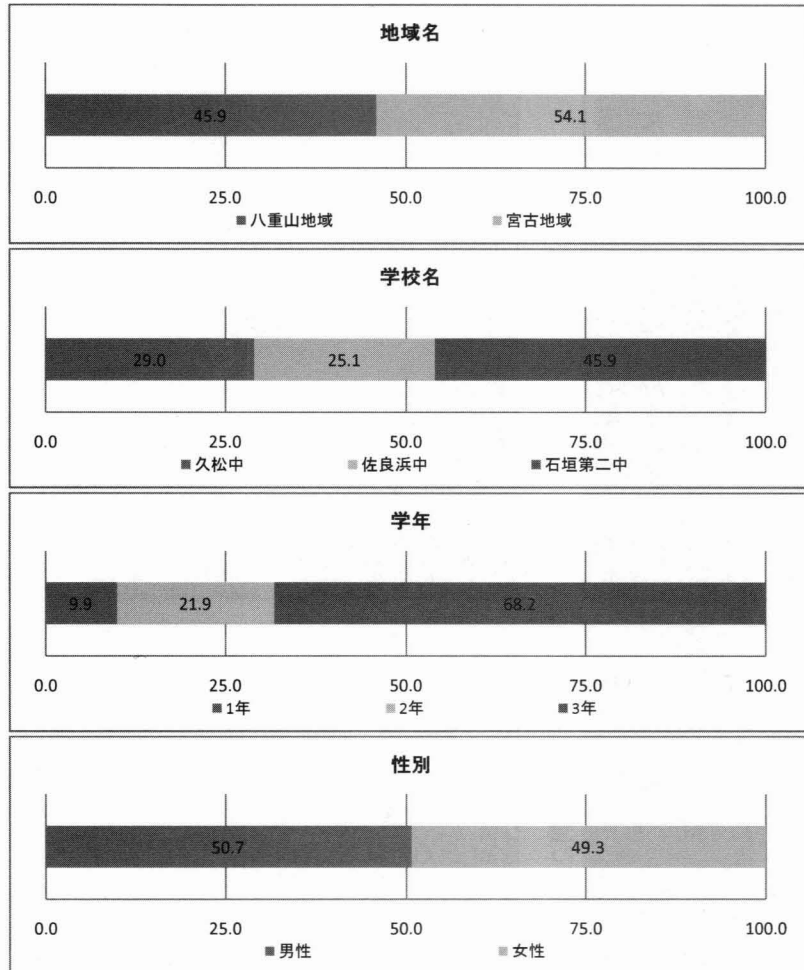
最後に、今回のプロジェクトでお世話になった学校のうち、中学校についてはアンケート調査を実施した。サンプル数が少ないため、宮古・八重山両地区を合わせての集計とし、本プロジェクトの中学生への影響を調べることにした。291名に配布し、283件の有効回答を得た（回収率97.3%）。事業実施直後に配布・回収を行ったために高い回収率となっている。

以下に見るように、全体としてプロジェクトそのものへの評価は高くなっている。詳細な分析は省くが、「ややそう思う」「とてもそう思う」を合わせて90%以上の生徒が好意的な評価を与えている項目を見ると、「大学生の話は役に立った」（93%）、「大学生を尊敬することができた」（92.3%）、「大学生の話は面白かった」（92.3%）、「後輩にもこういうチャンスはあった方がよい」（91.6%）、「大学生の話は理解できた」（91.2%）、「また大学生と交流してみたい」（91.2%）となっている。プロジェクト実施前は「もともと大学で学んでみたいと思っていた」（60.8%）（問2-3）、「もともと琉球大学で学んでみたいと思っていた」（28.3%）（問2-4）であったことを考えると、本プロジェクトを通じて、大学進学を必ずしも考えていなかった生徒たちにも大学を一つの選択肢として感じてもらうことができたのではないかと思う。

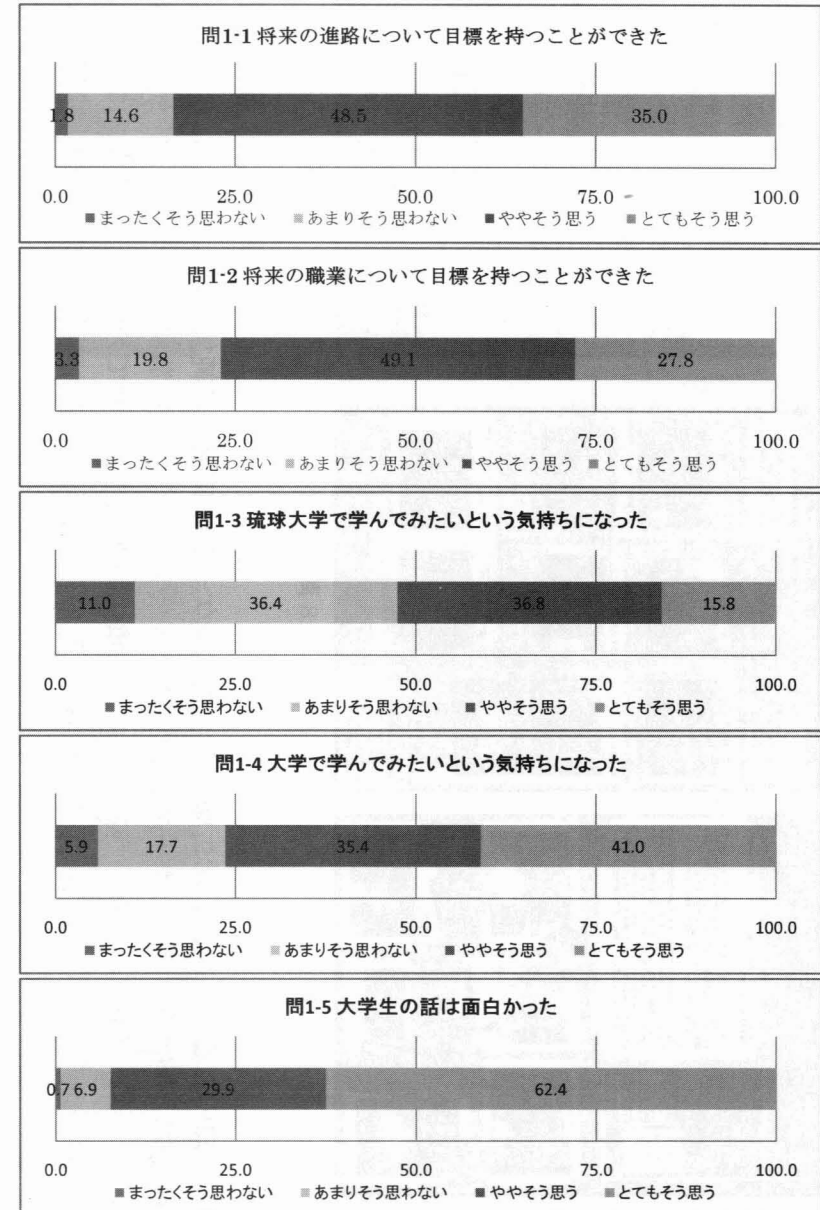
2011年度「知のふるさと納税」アンケート調査

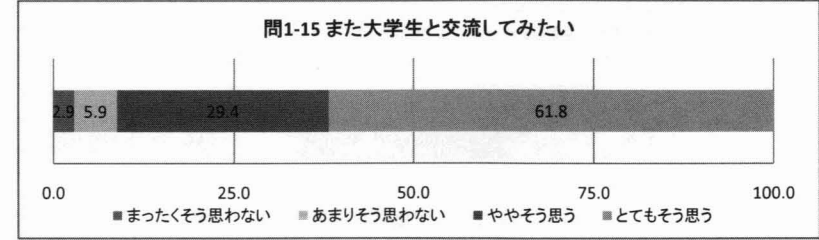
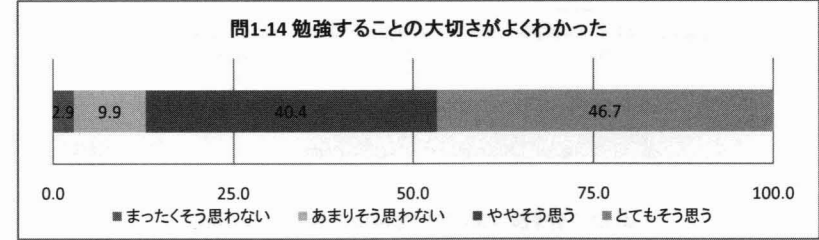
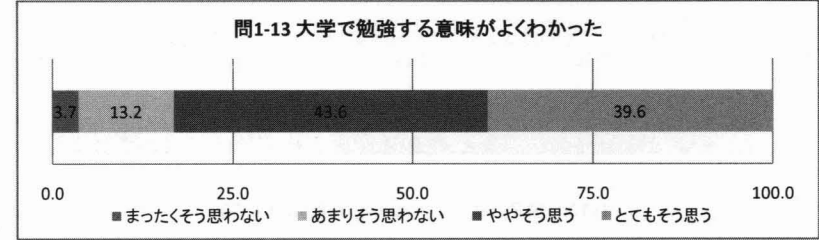
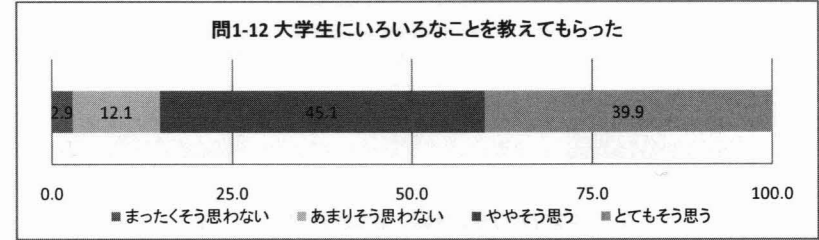
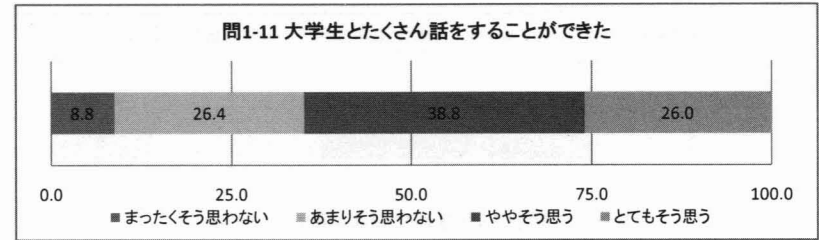
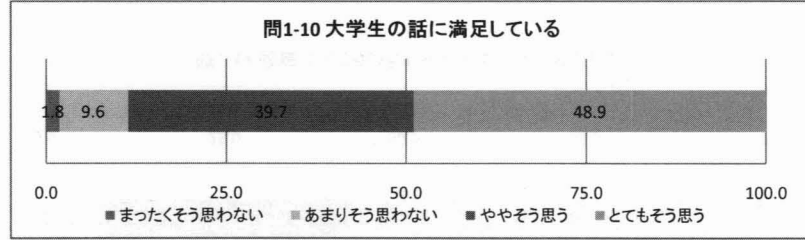
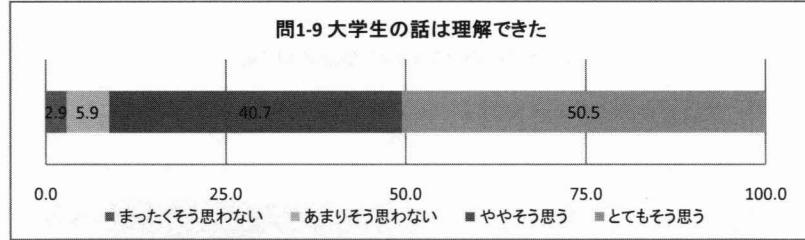
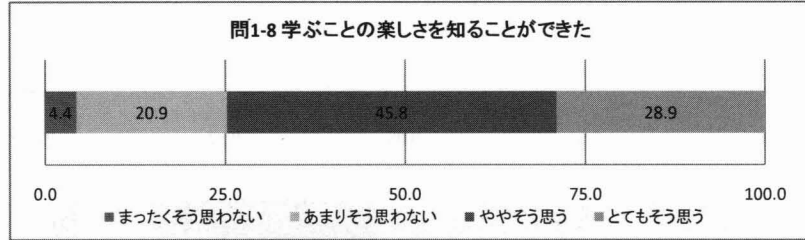
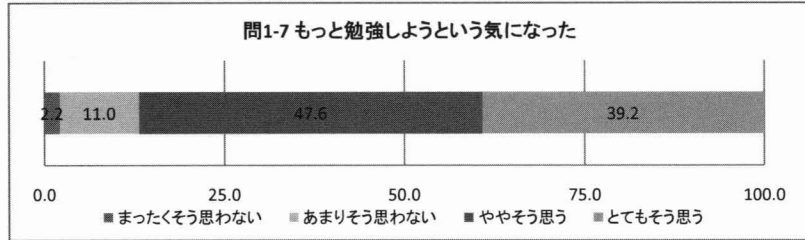
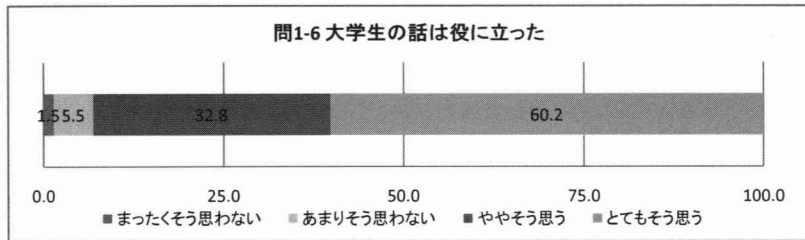
単純集計グラフ（無回答除く）

【属性】

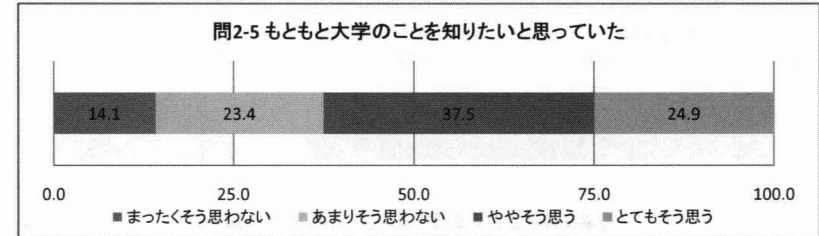
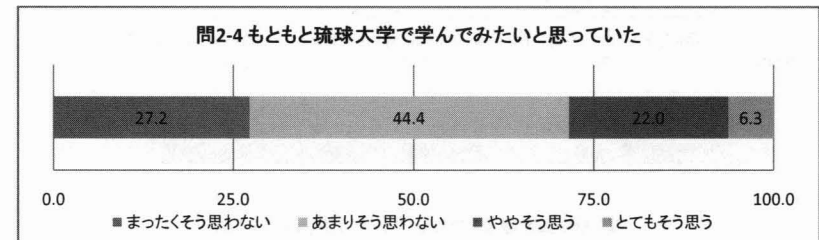
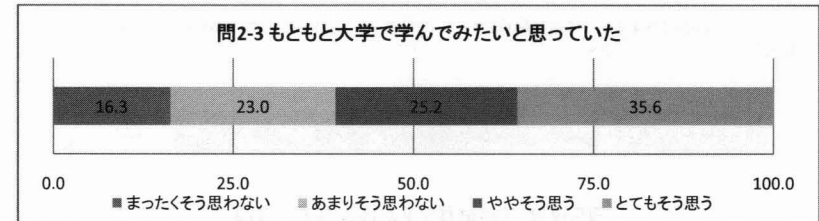
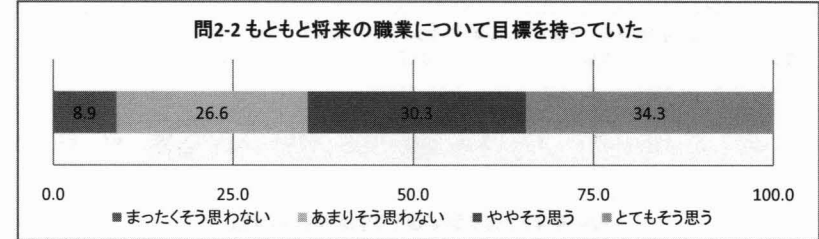
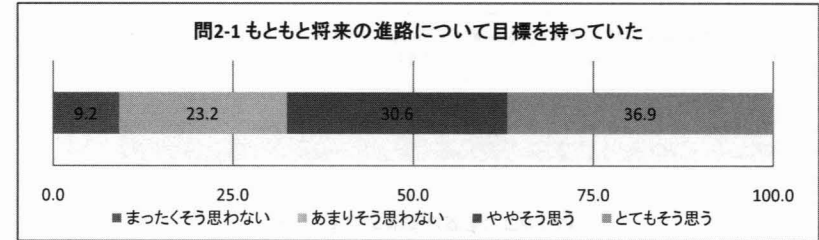
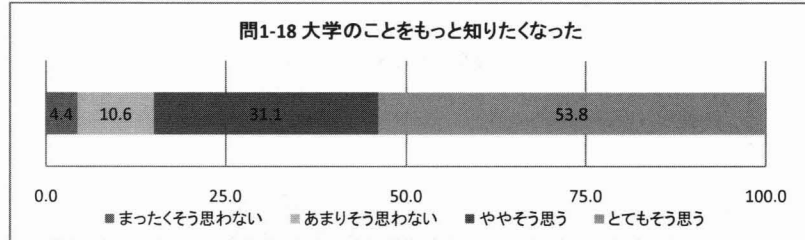
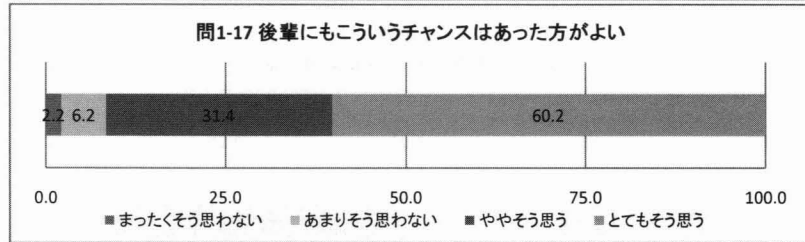
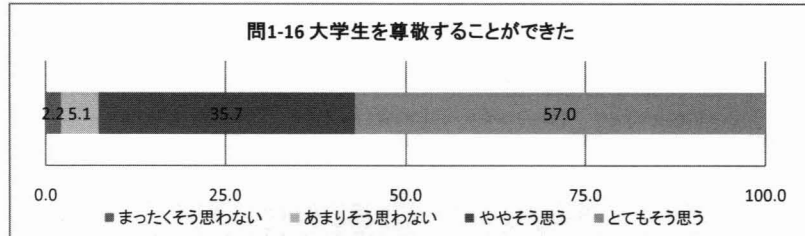


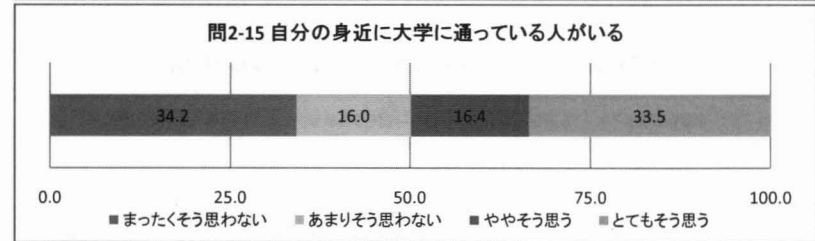
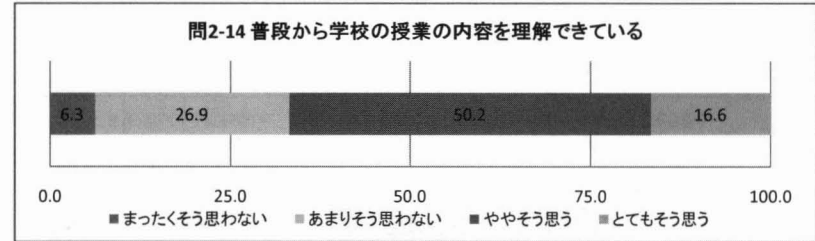
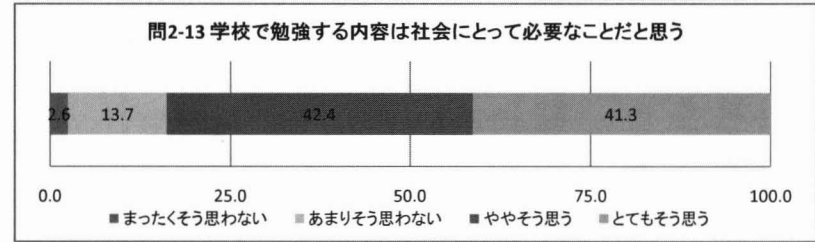
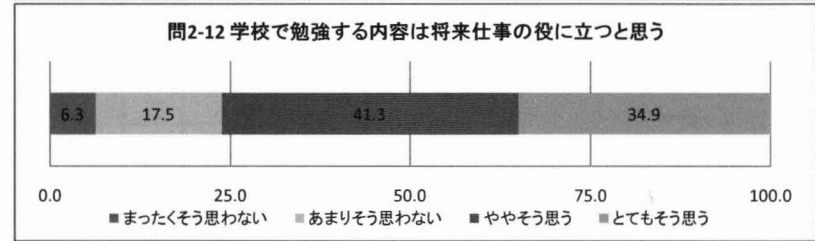
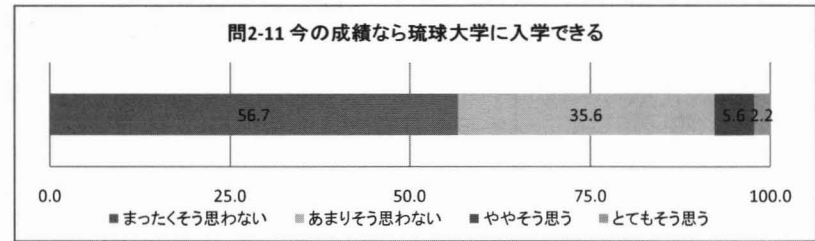
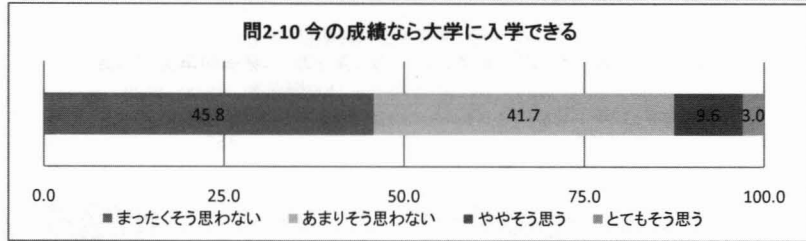
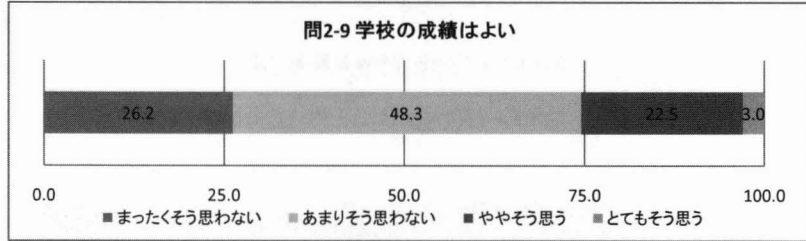
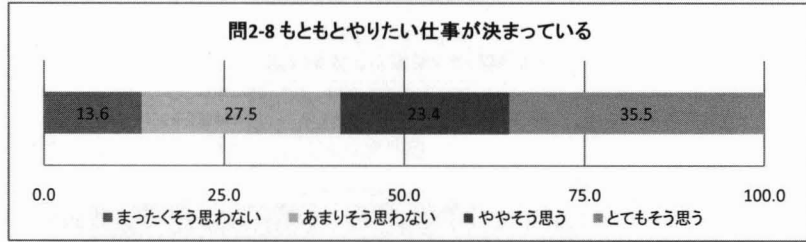
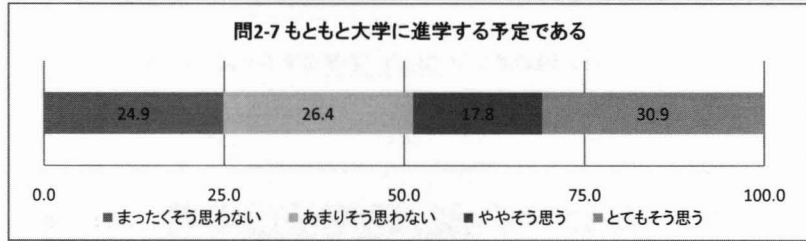
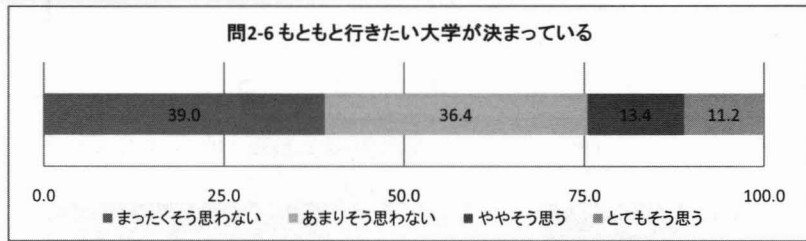
【問1】

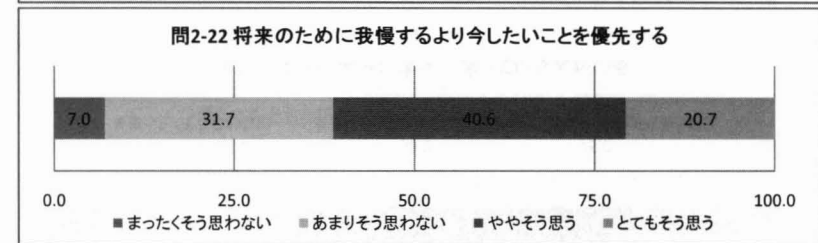
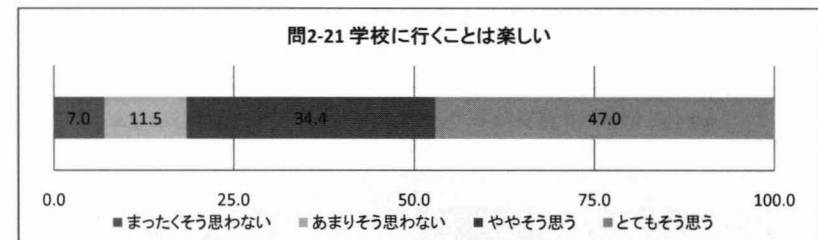
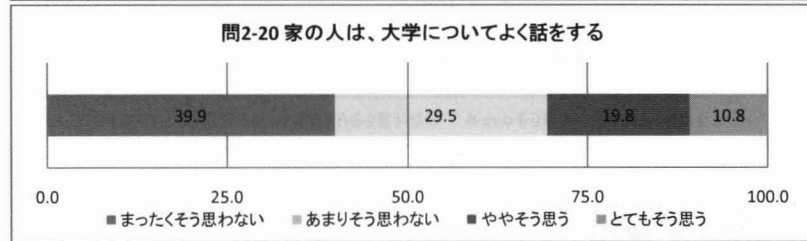
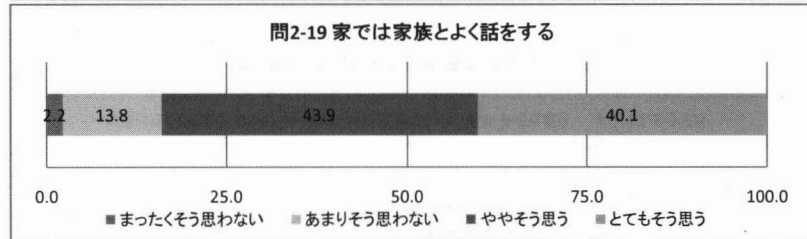
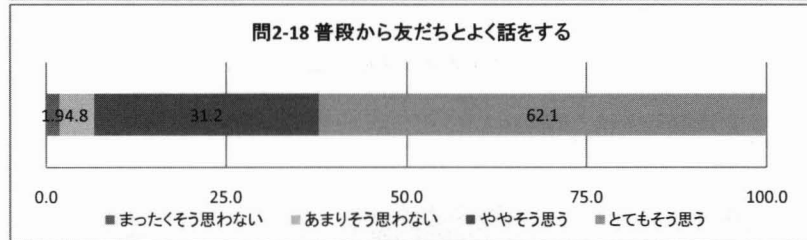
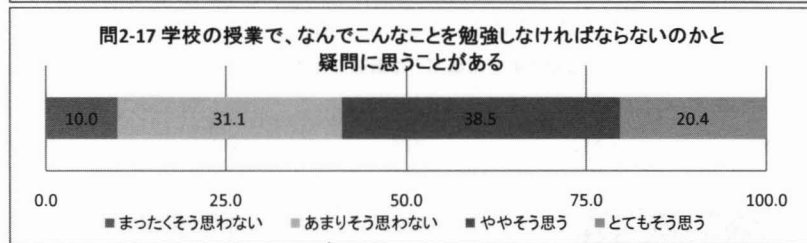
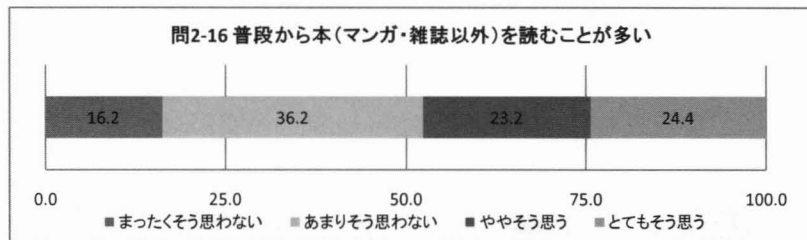




【問2】







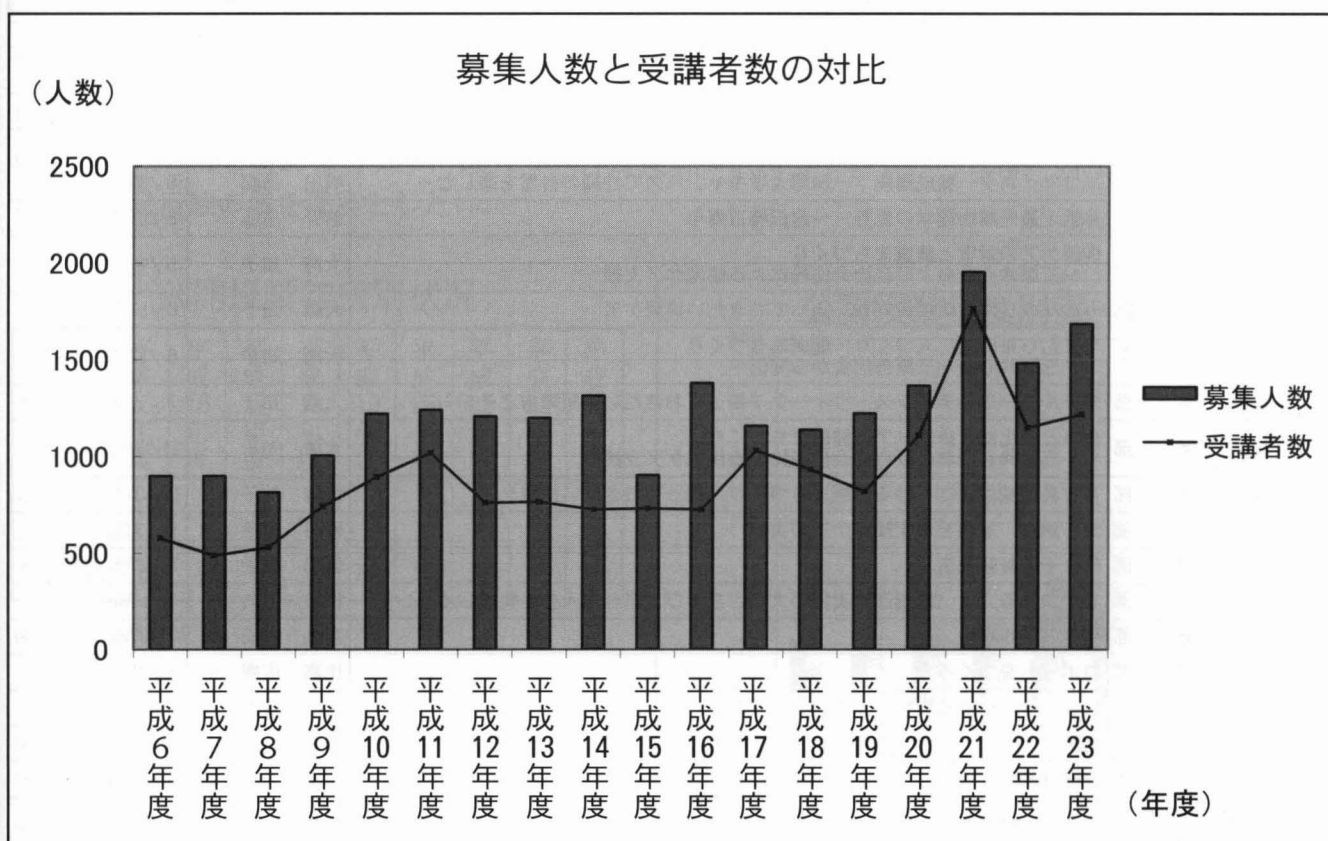
2. 一般公開講座

平成23年度は、専門コース14講座、一般コース32講座、あわせて46講座を開設し、1,215名の受講者があった。

22年度実績と比較すると、専門コースが4講座増、一般コースが11講座増となっており、総受講者数でも67名の増となった。平均定員充足率は専門コースが71%、一般コースが75%となっており、各講座が余裕を持って定員を定めていることを考えると、高い割合で受講者が参加しているといえる。

一般公開講座 年度別状況

年度別	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
講座数	24	24	24	18	19	26	28	26	28	16	25	20	22	24	31	40	32	46
延べ時間	389	413	314	350	387	315	373	463	405	292	431	398	531	547	582	691	970	557
募集人数	900	900	815	1,005	1,219	1,239	1,205	1,196	1,313	905	1,380	1,156	1,136	1,220	1,365	1,952	1,481	1,684
受講者数	577	488	530	743	894	1,018	762	767	726	733	727	1,030	932	821	1,109	1,762	1,148	1,215



平成23年度 琉球大学一般公開講座実施状況

講座区分	学 部	講 座 名	主任担当教員	実施月日
専 門 コ ー ス	教 育 学 部	栄養教諭と教員等のための食育推進の実践講座	森山 克子	5/14(土)～10/22(土)
	教 育 学 部	臨床動作法の基礎と実際	金城 昇	7/29(金)
	医 学 部	新任保健師のためのスキルアップ講座	當山 裕子	5/21(土)～2/4(土)
	医 学 部	在宅や介護施設における尿路感染防止のための排泄ケア技術	大湾 知子	5/8(日)
	医 学 部	市中・病院・老人福祉施設・在宅における口腔ケアと排泄ケア感染防止対策技術	大湾 知子	11/20(日)
	医 学 部	大学院進学を希望する看護職(社会人)のための英語論文購読講座	垣花 シゲ	8/27(土)
	工 学 部	電気主任技術者短期養成講座	千住 智信	4/23(土)～5/14(土)
	工 学 部	第二種電気工事士技能試験対策講習(上期試験)	比嘉 晃	7/2(土)～7/16(土)
	工 学 部	第二種電気工事士技能試験対策講習(下期試験)	比嘉 晃	11/12(土)～11/26(土)
	保健管理センター	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	古川 卓	4/9(土)
	保健管理センター	『自立活動』に生かす動作法-基本的な考えと方法-	古川 卓	5/20(金)～5/21(土)
	保健管理センター	心理リハビリテーション -障がい者のための生涯発達援助法の実践Ⅰ-	古川 卓	5/9(月)～7/11(月)
	保健管理センター	心理リハビリテーション -障がい者のための生涯発達援助法の実践Ⅱ-	古川 卓	10/3(月)～12/19(月)
	保健管理センター	心理リハビリテーション -障がい者のための生涯発達援助法の集中実践講座-	古川 卓	7/27(水)～7/29(金)
一 般 コ ー ス	法 文 学 部	暮らしを向上させるインターネットの活用術	李 好根	6/18(土)、6/19(日)
	法 文 学 部	世界に発信! ホームページの作成術	李 好根	7/3(日)～7/10(日)
	法 文 学 部	体験! 楽しく学ぶ社会心理学	高良 美樹	8/20(土)
	教 育 学 部	模型型風力発電機の製作を通して学ぶエネルギー変換のしくみと再生可能エネルギー	清水 洋一	7/31(土)
	教 育 学 部	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座	清水 洋一	8/21(日)
	教 育 学 部	発声法と歌唱法(琉球音楽を中心に)	泉 恵得	4/23(土)～5/22(日)
	教 育 学 部	やんばるジオツアー: 景観の観察から地球環境システムを考える	尾方 隆幸	5/7(土)
	教 育 学 部	琉大生がサッカーと勉強を教えます!	笹澤 吉明	5/22(日)～3/25(日)
	教 育 学 部	50代シニアのための健康サッカー講座	真栄城 勉	5/1(日)～10/2(日)
	教 育 学 部	ストレスとうまくつき合うためのマインドフルネストレーニング	伊藤 義徳	10/4(火)～1/24(火)
	教 育 学 部	韓流ブームと韓国映画の裏側を探る	田中 敦士	3/31(土)
	教 育 学 部	琉球文化とうちなべち体験	田中 敦士	1/26(木)
	理 学 部	身近な海を楽しもう～サンゴ礁の生き物塾	中村 崇	7/30(土)
	理 学 部	エコマイスター養成講座 -琉球大学キャンパスで沖縄の自然を楽しむ-	横田 昌嗣	8/20(土)～8/21(日)
	理 学 部	体感! 最先端物理学の世界 ～超伝導百周年	前野 昌弘	8/21(日)
	医 学 部	排尿ケアの対策と健康まちづくり ～三原共心会および自治会住民による住宅ケア支援～	大湾 知子	5/8(日)
	医 学 部	みんなの日常生活に役立ち、知っておきたい排尿ケア	大湾 知子	6/11(土)
	医 学 部	うまんちゅの宝、人づくり・健康まちづくり ～三原共心会・三原自治会から発信～	大湾 知子	6/12(日)
	医 学 部	ワールド・コンチネンス・ウィーク: 知っておきたい排尿障害とその対応	大湾 知子	7/3(日)
	医 学 部	食事と消化器・排泄ケアの健康まちづくり ～三原共心会および自治会住民による住宅ケア支援～	大湾 知子	11/20(日)
	医 学 部	宮古島地域住民における健康まちづくり、知っておきたい排尿ケア	大湾 知子	12/3(土)
	医 学 部	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	砂川 洋子	9/3(土)
	医 学 部	母と子の月経教室	儀間 継子 他	8/27(土)
	工 学 部	心がつくる人生(倫理道徳実行の大切さを学び、豊かな人生を実現しよう)	和田 知久	7/17(日)
	工 学 部	夏休み工作教室	高良 一夫	7/27(水)～8/3(水)
	工 学 部	ロボットをつくろう	比嘉 広樹	8/21(日)
	農 学 部	Excelによる数学シュミレーション	鹿内 健志	9/10(土)
	農 学 部	発酵学	小泉 武夫	9/13(火)～9/30(金)
	農 学 部	発酵食品学	山本 泰 他	10/15(土)～12/17(土)
	生涯学習教育 研究センター	“琉球大学の至宝”	石島 英 他	3/17(土)～3/18(日)
	生涯学習教育 研究センター	平成23年度強化テーマ 生涯学習・地域づくり関係者のためのワークショップ講座～入門編	加留部貴行	9/7(水)～9/8(木)
	生涯学習教育 研究センター	平成24年度強化テーマ 生涯学習・地域づくり関係者のためのワークショップ講座～フォローアップ編	加留部貴行	12/10(土)

3. 公開授業

琉球大学の学生を対象とする正規の授業科目を市民にも広く公開するのが公開授業である。平成23年度は、科目数が85科目（前年度比－5科目）、受講者数はのべ196名（前年度比－68名）であった。

科目数、受講者ともに減少したが、平成21年度より導入した「定額料金制」は徐々に浸透しつつある。「定額料金制」とは、以下のようなものである。

【半期定額料金】
 ★半期間 6,600円 で複数科目の授業が受講可能。
 (旧料金) —————→ (新料金)

1科目（半期） 4,600円 × 1科目 = 4,600円	
1科目（半期） 4,600円 × 2科目 = 9,200円	何科目を受講しても
1科目（半期） 4,600円 × 3科目 = 13,800円	6,600円
1科目（半期） 4,600円 × 4科目 = 18,400円	

【通年定額料金】
 ★通年間 9,100円 で複数科目の授業が受講可能。
 (旧料金) —————→ (新料金)

1科目（半期） 6,600円 × 2科目 = 13,200円	
1科目（半期） 6,600円 × 3科目 = 19,800円	何科目を受講しても
1科目（半期） 6,600円 × 4科目 = 26,400円	9,100円

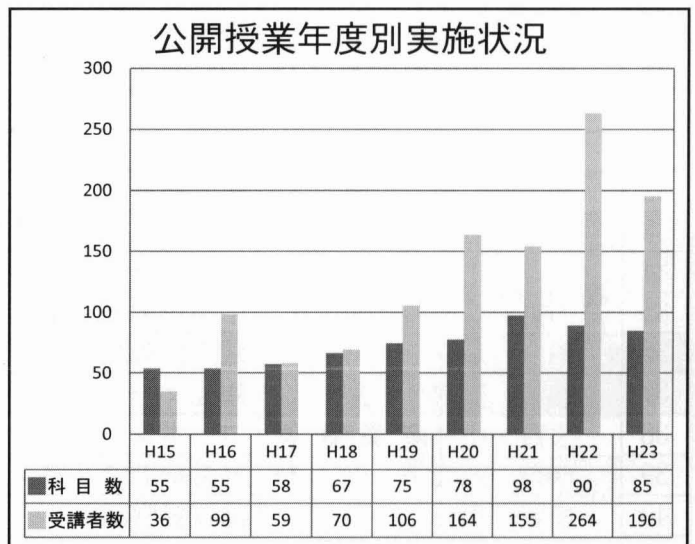
★通年定額料金は、通年の授業を複数科目だけではなく、半期（前・後）授業を複数科目受講することも、両方を組み合わせることも可能。

本学の提供する公開授業は旧料金の場合でも全国平均のおよそ半額という設定であったが、「定額料金制」の導入により、県民の方々にとってはさらに複数科目の受講が容易になった。今年度は40名の方が複数科目を受講しており、最大で24科目受講された方もいる。今後は、各学部の協力を得て、さらなる科目数の増を課題としたい。

公開授業年度別状況

年度別	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
科目数	55	55	58	67	75	78	98	90	85
受講者数	36	99	59	70	106	164	155	264	196

公開授業年度別実施状況



平成23年度 琉球大学公開授業一覧（前期： 後期： ）

No.	学 部	学 科 等	授 業 科 目	学期	担 当 教 員
1	法 文 学 部	総 合 社 会 シ ス テ ム 学 科	グローバルポリティクス	後	我部 政明
2			国際関係理論	前	我部 政明
3			財政学	前	瀬口 浩一
4			地方財政論	後	瀬口 浩一
5		人 間 科 学 科	教育社会学入門	前	岩橋 法雄
6			カウンセリング演習	前	田中 寛二
7			非行と犯罪の心理学	後	田中 寛二
8			臨床心理学	前	財部 盛久
9			発達障害心理学	後	財部 盛久
10			倫理学基礎演習Ⅰ	後	浜崎 盛康 他
11			社会学原論Ⅰ	前	野入 直美
12		国 際 言 語 文 化 学 科	琉球史概論Ⅰ	前	高良 倉吉
13			琉球史概論Ⅱ	後	大浜 郁子
14			琉球民俗学概論Ⅰ	前	赤嶺 政信
15			琉球民俗学概論Ⅱ	後	赤嶺 政信
16			琉球語学概論Ⅰ	前	狩俣 繁久
17			琉球語学概論Ⅱ	後	狩俣 繁久
18			中国文学概論Ⅰ	前	紺野 達也
19		中国文学概論Ⅱ	後	紺野 達也	
20		共 通 教 育 科 目	現代の国際関係	前	我部 政明
21			現代社会のしくみ 2組	前	野入 直美
22			琉球語入門Ⅰ	前	狩俣 繁久
23			琉球語入門Ⅱ	後	狩俣 繁久
24			フランス語圏文化入門	前	宮里 厚子
25			中国古典文学の世界	前	紺野 達也
26		観 光 科 学 科	観光人類学	前	松本 昌子
27			エコツーリズム入門	前	大島 順子
28			環境教育論	後	大島 順子
29			国際開発論	前	西村 美彦
30			ホテル経営論Ⅰ	前	上地 恵龍
31			ヘルスツーリズム論	前	荒川 雅志
32			観光経済学	前	梅村 哲夫
33			産 業 経 営 学 科	人的資源管理論基礎	前(夜)
34		経営学概論		通年(夜)	井川 浩輔
35		中小企業経営論		前(夜)	牛窪 潔
36		観光経営論		後(夜)	桑原 浩
37		観光マーケティング論		前	桑原 浩
38		コーポレートファイナンス基礎編		前(夜)	桑原 和典
39		経営統計学基礎		前(夜)	志村 健一
40		品質経営論		前	志村 健一
41		マーケティング管理論		前(夜)	辻 洋右
42		日本流通論		前	知念 肇
43		経営戦略論		前	與那原 建
44		経営学概論	前	與那原 建	

No.	学部	学科等	授業科目	学期	担当教員	
45	観光産学部 観光学部	産業経営学	会計学原理Ⅰ	前(夜)	上江洲 由正	
46			簿記原理Ⅰ	通年(夜)	多賀 寿史	
47			会計学原理Ⅰ	前	多賀 寿史	
48			会計学原理Ⅱ	後	多賀 寿史	
49		共通教育科目	キャンパス・エコライフ：理論と実践	前	伊波美智子 他	
50	教育学部	学校教育教員養成課程	地誌学概論B	後	西岡 尚也	
51			地理学外書購読Ⅰ	前	西岡 尚也	
52			地理学外書購読Ⅱ	後	西岡 尚也	
53			理科教育法A〔1組〕	前	吉田安規良	
54			授業技術	前	吉田安規良	
55			職業指導	前	福田 英昭	
56			木材加工基礎	前	福田 英昭	
57			木材材料学	前	福田 英昭	
58			音楽史概論	前	泉 恵得	
59			教師のための発声法	前	泉 恵得	
60			指揮法B	後	泉 恵得	
61			共通教育科目	南北問題と開発教育入門	前	西岡 尚也
62				沖縄の染と織	前	片岡 淳
63			理学部	物質地球科学科	電磁気学Ⅰ	前
64	電磁気学Ⅱ	後			前野 昌弘	
65	物理数学Ⅰ	前			稲岡 毅	
66	海洋自然科学科	海洋地質学		前	古川 雅英	
67		熱帯生物科学概論		前	傳田 哲郎 他	
68		熱帯生物生産学概論		後	中村 崇 他	
69	共通教育科目	物理学Ⅰ		前	稲岡 毅	
70		化学Ⅰ		前	堀内 敬三	
71		物理学入門Ⅰ	前	安田 千寿		
72		物理学入門Ⅱ	後	安田 千寿		
73		海洋の科学	前	松本 剛		
74		海洋の科学	前(夜)	松本 剛		
75	医学部	保健学科	精神看護論	前	與古田孝夫	
76	工学部	環境建設工学科	環境エネルギー計画	前	堤 純一郎	
77		情報工学科	自然言語工学	後	高良 富夫	
78		情報工学科	音声画像処理	後	長山 格	
79		共通教育科目	環境影響評価概論	後	堤 純一郎	
80			先端情報工学概論	後	玉城 史朗 他	
81	農学部	共通教育科目	食料生産と環境	後	鬼頭 誠	
82	大学院	医学研究科	臨床腫瘍学特論	通年	村山 貞之	
83	大学院	人文社会学研究科	日米関係	後	我部 政明	
84	生涯学習教育		教育の社会史	後	背戸 博史	
85	研究センター		教育政策史	後	後藤 武俊	

4. 高大連携事業

中等教育と高等教育の円滑な接続に向けて、高校生を対象とする多様な講座を提供するのが高大連携事業である。本事業は、大学教育センターと当センターとの共催により、公開講座（会場は本学）、出前講座（会場は高校）、公開授業（正規の授業科目を高校生に公開）の3タイプで提供される。23年度は公開授業21、公開講座2、出前講座48科目を用意し、公開授業4科目、出前講座17科目を開設した。

平成23年度高大連携事業実績一覧

公開授業 提供科目数	21科目
公開講座 提供科目数	2科目
出前講座 提供科目数	48科目

○公開授業科目（開設科目名）

（琉球大学における通常の授業科目を全部又は一部を公開し、本学学生と一緒に聴講させる）

No.	学部	学 科 等	講 義 名	担当教員名
1	法文	人間科学科	現代社会のしくみ（前期）	野入 直美
2	理学	物質地球科学科	物理数学Ⅰ	稲岡 毅
3	法文	人間科学科	現代社会のしくみ（後期）	野入 直美
4	教育	学校教育	臨床心理学	伊藤 義徳

○出前講座（開設科目名）

（高校生のみを対象とした公開講座を開設し、本学教員が外向して受講を希望する高校生へ受講させる講座）

No.	学部	学 科 等	講 義 名	担当教員名
1	農学	地域農業工学科	これからの「農業」の話をしよう ～未来を考えるための農学	鹿内 健志
2	理学	物質地球科学科	ブラックホールの風景 ～CGで見る相対性理論	前野 昌弘
3	法文	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
4	教育	学校教育	心理学講座	伊藤 義徳
5	法文	人間科学科	空間・時間・文化の魅力 ～地理学・歴史学・人類学入門講座	武井 弘一
6	医学	保健学科	中長距離走の科学的トレーニング	尾尻 義彦
7	法文	国際言語学科	空間・時間・文化の魅力 ～地理学・歴史学・人類学入門講座	山里・宮城 宮内・後藤
8	農学	亜熱帯農林環境科学科	熱帯・亜熱帯地域における持続的食料生産	鬼頭 誠
9	法文	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川 隆士
10	理学	物質地球科学科	ブラックホールの風景 ～CGで見る相対性理論	前野 昌弘
11	工学	情報工学科	新世代放送受信半導体技術 ～デジタルを使えば車でハイビジョンが見れる～	和田 知久
12	熱セ	熱帯生物圏研究センター	免疫～私たちの体を守る白血球の働き～	松崎 吾朗
13	熱セ	熱帯生物圏研究センター	免疫～私たちの体を守る白血球の働き～	松崎 吾朗
14	農学	地域農業工学科	これからの「農業」の話をしよう ～未来を考えるための農学	鹿内 健志
15	医学	保健学科	中長距離走の科学的トレーニング	尾尻 義彦
16	工学	電気電子工学科	人に電気をつないでみると・・・	比嘉 広樹
17	医学	保健学科	中長距離走の科学的トレーニング	尾尻 義彦

5. 強化テーマ「生涯学習・地域づくり関係者のためのワークショップ講座」

今年度は、生涯学習や地域づくりの分野では効果的な学習方法として知られてきたワークショップを強化テーマに選んだ。ワークショップとは、多様な人々が自らの経験や体験をもちより、交換することで、深い気づきや行動への動機づけをもたらすような場のことである。多様な経験を持った成人が対象となることの多い生涯学習の分野では、こうした場づくりの手法に対する関心は高く、関連する著書が多数刊行されている。しかし、自分自身がワークショップの持つ潜在力を体験してみなければ、実際にそうした場づくりを行うことは難しいため、本格的にワークショップを取り入れた講座等を企画することに二の足を踏んでいる生涯学習関係者も多い。他方で、「住民主体のまちづくり」といったことが盛んに言われるなかで、多様な人々が集い、意見を交わすことのできる場づくりへの関心はかつてないほど高まっている。こうした認識に立ち、まずはワークショップに関心はあるが、あまり体験したことがない、実施したことがないという人々を対象に「入門編」としてワークショップ講座を開催することにした。

講師には、日本ファシリテーション協会のフェローであり、九州大学大学院統合新領域学府で客員准教授をされている加留部貴行先生をお招きした。加留部先生は、『教育研修ファシリテーター』や『チーム・ビルディング』（いずれも日本経済新聞社刊）などの著書があり、全国各地で年間200件以上の研修やワークショップに携わっているワークショップのエキスパートである。これ程の方を呼ぶことができたのは、たまたま加留部先生が前年度に本学のFD講演会で講師を務められていた際に、当センターの教員も参加していたからであった。先生の企画されたワークショップは素晴らしく、大学教員のFDだけにとどめるのではなく、県民の多くの方々にも体験して欲しいと感じたことも、今回の企画の背景にある。

今回の講座は同じ内容のプログラムを2日間開催することにした。できるだけ多くの方々にワークショップを体験してほしいと考えたからである。また、通常は土日に講座を開催することが多いが、平日の開催であれば県内出張という形で参加できる方も多いためと考え、9月7日（水）、8日（木）の13：00～17：00という時間帯で開催することにし、それぞれ20名ずつ、計40名で募集を開始した。

募集開始直後はあまり応募がなかったものの、近隣自治体の生涯学習関連部署に直接案内を行ったところ急速に応募が増加し、結果として30名ずつ、計60名の参加者を得ることができた。

以下、9月に実施した「入門編」の大まかなプログラムを示しておく。なお、12月には「入門編」参加者を対象とする「フォローアップ編」を開催したが、こちらは、参加者個々の要望をふまえて加留部先生がアドバイスをするという形式であったため、プログラムの掲載は割愛させていただく。



講座の様子①



講座の様子②

【9月7日（水）・8日（木）のプログラム概要】

1. 地域づくりを考えるワークショップ体験

■ワーク①：「これまでのつながり・これからのつながり」

- ・赤の付箋に「これまでつながっている人（お世話になっている人）」、青の付箋に「これからつながりたい人」を書き出させる（5分）
- ・自己紹介もかねて、付箋についての説明をし、付箋を張り出していく（30分）
- ・休憩（他のテーブルも見てみる）（5分）
- ・振り返り（Keep, Problem, Try：KPT）（3分）
- ・感想を述べ合う（5分）

※このワークは状況を見て時間を延ばしていた。開始直後のワークでもあり、後から入ってくる人もいることを想定しての対応か。

■ワーク②：「地域」・「学び」の関係を考える

- ・ホワイトボードに「地域□学び」と書き出し、別に助詞（が、で、と、な、に、の、は、へ、も、を）を書き出したカードを準備しておく。
- ・3人一組をつくり、それぞれの人にABCを割り振る。
- ・Aがカードを拾い、シンキング・タイム（1分）。助詞を加えて出来上がる言葉から連想することを、B・Cにとうとうと話す。B・Cは聴くだけ（3分）。
- ・Aは後ろ向きになる。B、Cが感想を述べ合う（3分）。
- ・最後はAも参加（3分）。
- ・以上、1クールを10分とし、役割を代えて3回実施する（計30分）。
- ・3クール終了したら、振り返り（KPT）。ただし、今度はグループ内で発表しない。感想を自分自身が持ち帰るため、このようにすることもある。

※このワークは時間厳守。間延びしないように配慮している。

2. ワークショップという場で何をめざすのか（講義）～詳細は省略～

- (1) わざわざ集める、集まるにはワケがある
- (2) ワークショップという場の捉え方

3. ファシリテーションとは（講義）～詳細は省略～

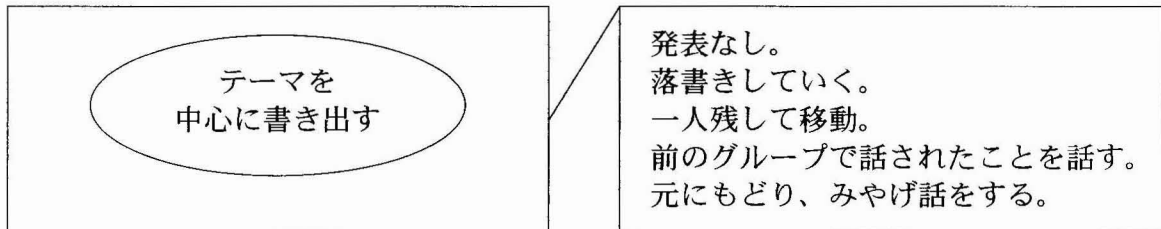
- (1) より良い「交換」が生み出すもの
- (2) ファシリテーションとファシリテーター
- (3) プロセスを活かすファシリテーション

4. 対話の場づくりをめざして

(1) 全体振り返り～「ワールド・カフェ」を体感しながら

■テーマ：「今回学んだことでこれから活かしていきたいことは何ですか」

例) 模造紙の使い方



(2) 「ワールド・カフェ」の基本的な進め方

- ① 1グループ4～6人ほどで構成されたグループを複数つくる
- ② 進行役から提起される発問についてグループで話し合いを進める
- ③ 20分置きくらいに、ホスト1名を残して、全員席替えをする
- ④ 新しいメンバー同士で先ほどまで自分がいたグループで話し合われていた内容を披露しあう
- ⑤ これを数回繰り返し、最後に元のグループに戻る

(講義資料より)

※もって帰ってもらうためには、元に戻った後、A4用紙を1枚渡して自分が重要だと思ったことを書き留めるワークがあっている。

(3) 「ワールド・カフェ」を通じて見えてくるもの

(4) チェックアウト

6. センター独自講座「琉球大学の至宝」

名誉教授など、本学で長く研究に邁進された先生方の力を借りて学問の世界を俯瞰するのがセンター独自講座「琉球大学の至宝」である。

企画の際には本センター運営委員から多くの情報をいただいているが、第4回目となる今年度は理学部において長く研究をされてきた「至宝」によって下記の通りの講座を実施した。

平成23年度 琉球大学一般公開講座

“琉球大学の至宝”

平成24年 3月17日(土)・18日(日)


対象者: 高校生以上の方30名まで(先着順) 受講料: 無料
会場: 琉球大学生涯学習教育研究センター301講義室(放送大学3階)

学問は、深く、無限の広がりを持っています。学問は、小さな入口から大きな世界を眺める作業です。この講座では、長く本学で教鞭を執られ、専門分野を極めた先生方が知の扉を開き、皆さんの知らない世界をご案内致します。どうかこの機会に琉球大学の至宝が提供する学問の世界を心ゆくまでご堪能ください。

日時	テーマ	担当講師
3/17(土) 13:30~15:00	「台風気象学の世界」 ～自然界の‘台風’認識から今日的な 台風研究理解にいたるまでの歴史概観～	石島 英 (理学部名誉教授)
3/17(土) 15:15~16:45	「火山地質学の世界」 ～深海で発見された材木状軽石～	加藤 祐三 (理学部名誉教授)
3/18(日) 13:30~15:00	「魚類学の世界」 ～沖縄で見られる魚達の物語るもの～	吉野 哲夫 (元理学部教授)
3/18(日) 15:15~16:45	「生物学と生命科学の世界」 ～過去・現在・未来を思慮する～	上原 剛 (理学部名誉教授)

申込先:琉球大学学術国際部地域連携推進課
TEL:098-895-8019 FAX:098-895-8185

裏面の申込用紙に必要事項を記載の上、FAXにてお申し込みください。
ホームページからのお申込はこちら→ <http://www.ercl.u-ryukyu.ac.jp/index.shtml>



「学問の世界を広くわかりやすく開示していくことは並のキャリアではなかなか出来るものではない」とは昨年度報告の際に記した感想であるが、回を重ねる度にその想いは強くなる。本講座を毎年楽しみにしてくださる受講者がいるが、スタッフ自身もまた同じ思いで企画している。

今年度は自然現象に関する講座が2本、生物に関する講座が2本という構成とした。日頃身近に接している対象を科学するということが如何に愉快的なことであるのか、長年の研究過程やその成果から、受講者の一人ひとりに知的興奮が伝播する講座であった。

7. 学内教職員有志による勉強会の開催

昨年度より、学内教職員有志による自主的な勉強会を支援している。職業人の力量形成は生涯学習社会を構築するための中核的な事業であり、また、大学職員の資質向上に向けた取組（staff development）は大学運営にとって不可欠の努力である。これら二つの重要な取組を、本センターの課題であると受け止めての実施である。

2年目となる平成23年度も、「常にオープンであること」をルールとして月1回、計12回の勉強会を開催した。参会者がそれぞれテーマを持ち寄り形式であり、大学経営の課題や大学広報の在り方について、倫理審査委員会の取組や会計監査の仕組み、他大学のゲストを迎えての教育研究環境の比較、震災時における大学の対応、運営交付金制度についてなど、実に多彩なテーマを扱った。

慢心の誹りを恐れず言えば、専門分野の異なる教員、所属の異なる職員が勤務時間外に会し「よりよい大学づくり」を目指して勉強会を開催し続けていることを、誇らしくも思う。

参加者が固定化しつつあるという課題もあるが、あくまで自由参加の自主的な会として緩やかに運営する方針を持ち続けたい。とはいえ、もちろん「常にオープンであること」がルールの勉強会である。学内外を問わず、ご興味のある方は是非ともお問い合わせいただきたい。

8. 全国国立大学生涯学習系センター研究協議会への参加

平成23年10月20日（木）・21日（金）の両日、第33回全国生涯学習系センター研究協議会が北海道教育大学の当番によって開催された。文部科学省および全国29の国立大学法人から80名の参加者があり、本学からは真栄城センター長、背戸教授、後藤准教授、我那覇地域連携推進課長および玉城地域連携推進係員の5名が参加した。会議次第は以下のとおりである。

【第1日目】

○開 会（北海道教育大学長 本間 謙二 氏）

（文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課長 藤野 公之 氏）

○基調講演：「全国国立生涯学習系センターへの期待」

阿部 豊 氏（北海道教育庁後志教育局長）

○実践報告：「大学における社会貢献の今後の方向性」

辰己佳寿子 氏（山口大学エクステンションセンター准教授）

今 尚之 氏（北海道教育大学学校地域教育研究支援センター

生涯学習・地域連携部門主任センター員）

「自治体と生涯学習系センターとの協働」

円山 琢也 氏（熊本大学政策創造研究教育センター准教授）

山本 理人 氏（北海道教育大学岩見沢校准教授）

「教育職員と事務職員との協働」

金谷 光泰 氏（福島大学地域連携課主任）

石井 英紀 氏（キャンパス・コンソーシアム函館事務局）

○全体会1 協議会規約の改正についての協議・意見交換

【第2日目】

- 全体会2 協議会規約の改正についての協議
- 全国縦断熟議 in 北海道（テーマ：開かれた大学に、生涯学習系センターは貢献してきたか）
- 閉 会（北海道教育大学理事 眞田 雄三 氏）

第1日目の開会の後、阿部氏による基調講演が行われた。阿部氏は、地域の人材育成のための幅広い生涯学習の在り方や、地域と大学との連携について話題を提供するとともに、高等教育修了後の継続教育の保証や、地域における大学の存在意義の再確認など、大学に対する期待が述べられた。

また、実践報告では、各大学や自治体の地域貢献・生涯学習に関する様々な取組が紹介された。その中では、社会貢献に対する学内教職員の意識向上や、学外の様々な関係機関とのネットワーク構築の重要性、大学が敷居を低くし、地域に歩み寄る努力の必要性などの話題があげられた。

第2日目には、「全国縦断熟議 in 北海道」が開催され、参加者が少人数のグループに分かれ、「開かれた大学に、生涯学習系センターは貢献してきたか」をテーマに、生涯学習系センターと大学との関係性や大学の現状・課題およびその解決策などについて活発な意見交換が行われた。参加者は、大学職員、文部科学省関係者、教員、自治体職員、一般市民などと多岐に亘り、様々な立場からの大学についての見解に触れることができた。

全国的に生涯学習系センターの再編・統合が進み、センターの存在意義が問われている今、全国の様々な先進事例に触れ、参加者全員で課題や意見を共有することで、大学やセンターの役割を再確認することができた有意義な2日間であった。

9. 研究紀要第6号の発刊

琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要『生涯学習フォーラム』第6号には、今回も県内外から多数の投稿があり、厳正な査読を経て、報告3本、論文4本を掲載することとなった。

今回は、「まちづくり」や「家庭教育」といったキーワードに関連する複数本の論考が掲載となったほか、東日本大震災の被災地に対する支援の取組事例が報告されるなど、生涯学習・社会教育が持つ広範な守備範囲が反映されたものとなっている。

本『生涯学習フォーラム』は、全国の図書館や生涯学習関係機関等に広く配布を行っている。沖縄の取組が広く発信される場、また逆に、県外の卓越した取組が紹介される場、この紀要がそうした情報交換の媒体になることで、沖縄県をはじめ、我が国における生涯学習社会構築の加速度と精度が高まればと願ってやまない。

なお、本『生涯学習フォーラム』への投稿は公募制をとっており、査読の過程では、編集委員会による論文・報告執筆へのアドバイスを積極的に行っている。是非ともそうした機会をご利用いただき、どうかこれからも、紙面を通じた研究交流のため積極的な投稿をいただきたい。